



ブドウの樹オーナーになって、サンシャインにチェックイン！

『牛飼いとはいくなんのたか。』飼っていた牛を屠殺し、食し、販売することになったのだが、まだ言葉にするには時間がかかりそうだ。初めて口にする日もまだ先になるので、その感覚も含め次回号で記したいと思う。▼さて、10月初旬にデンマークのビジネスデザインスクール KAOS PILOT の集中コースを受講してきたので今回はその体験談をお伝えしたい。▼きっかけは知人から勧められたこと。ビジネススクール、リーダーシッププログラム、という響きにも興味が惹かれた。混迷の時代に効果的にビジネスを進めていきたい。差別化や普遍化を磨きたい。新しい農業のあり方を伝え・広めたい。そういう想いはあっても今の自分にはスキル・トレーニングが圧倒的に不足していると感じはじめたので、「チャンスは今しかない」と飛び込んだ。▼4日間のほとんどが実践プログラムだが、約30名の見知らぬメンバーと、次々に課題をこなしていく上で必ず最初に行うことがある。それは「チェックイン」と呼ばれる儀式だ。短い自己紹介だったり、道場に入るようにお辞儀をすることもある。初日のチェックインのルールはこうだ。▼1) スケッチブックとサインペンを用意する。2) 誰でもいいのでハイタッチして「hi!」と挨拶する。3) お互いに顔を見合って、スケッチブックに相手の顔をラフにスケッチする。時間にして30秒くらい。4) その時に絶対にスケッチブックの方を見てはならない。5) 描き終わったら、描いた顔の下に相手の知りたいプロフィールを書く。例えば「行ってみたい国は？」など。6) 描いたスケッチブックを破って相手に渡し、「bye!」で別れる。これを3-4人繰り返す。7) 手元に溜まった自分の絵の中から、自分の自己紹介に使用したい絵を選んで、下書いてある問いの答えを考える。8) 6名程度のグループを作り、選んだ絵と問いの答えを紹介して「チェックイン!」と唱える。▼手元を見ないので、福笑いのゲームのようにとんでもない絵になったりするのだが、一気に緊張がほぐれて、プログラムの空間に入場することになる。スケッチされることと質問されることで自分の心の扉が開かれた感覚になり、メンバーとのコミュニケーションが円滑になる。



実際の似顔絵

▼チェックイン後のプログラムはとても新鮮なもので、こちらも一例を挙げると、60分で「人を動かすリーダーシップ」がテーマの12-16ページの小さな絵本を作る。」というちょっと無理筋なプロジェクト。ここでチェックインの準備が大事。・リーダーをみんなで決め・絵本作りの目的を決め・グラドルールを設定し・チームの名前を決める。この準備に20分をかけて各グループで発表し、その意味を振り返ってから絵本作りを始めた。▼するとどうだろう。メンバーの力が不思議なほどまとまっていき、少ない時間でも素晴らしい絵本を作ることができた。1日の最後には絵本作りで印象に残ったことを一人一人が発表して「チェックアウト」して解散する。感じたことのない心地よい疲れが印象的だった。▼話はサンシャインに戻る。農場を楽しんでもらおうと、先月からブドウの樹オーナー制度というものを開始した(裏面参照)。ブドウが成長する様子を、送られてくる写真で楽しみながら、秋にはその木に実るブドウがお手元に届くというもの。オーナーになっていただいたお客様のお名前を、企業広告として紹介したり、サンシャインの商品が割引になったり、限定イベント(パネル下でのBBQや野外上映会、小麦の播種や枝豆収穫体験など)に参加できたりする。▼この制度はいわばサンシャインのファンメンバーみたいなもので、これに「チェックイン」するには、まず選んだブドウの樹に名前をつけてもらうこととした。樹に名前をつけるとは馴染みのないことかもしれないが、ブドウの実は知っていても、芽の形や、枝分かれの本数、花の色や形、房の数など知らないことも多いはず。私自身も成長を追うのが楽しみだ。サンシャインですずっと温めてきた企画が、振り返ってみるとビジネススクールで学んだこととつながっていて驚いている。(近藤恵)



クイーンニーナ (10月中旬)



収穫間際のエゴマ (10月中旬)